

**Partial English Translation of
JAPANESE UTILITY MODEL REGISTRATION
Laid Open Publication No. 52-98845A**

Page 234, left column, line 11 to right column, line 3

The present invention has the aforementioned construction: Wherein, when a high pressure gas is blown from the blowing port **21** into the operation chamber **15** in the condition shown in FIG. **1**, the vane **4** is rotated right by the gas pressure. Simultaneously therewith, the projections **2**, **3**, **7**, **9**, the ring **1**, the disk **5**, the vane **11**, and the output shaft rotate together with the vane **4**, wherein they are in the state shown in FIG. **4** in the course of the rotation. This rotation increases the volumes of the operation chambers **15**, **16** while decreasing the volumes of the chambers **17**, **18**. When the vane **4** passes between the hole **20** and one end of the hole **19** in this rotation, the high pressure gas flowing through the suction port **21** is blown into the operation chamber **16** through the chamber **15**, the hole **19**, the pipe **14**, and the hole **20**. Accordingly, the vane **11** receives the gas pressure, so as to continue rotating, being in the state shown in FIG. **1**. Then, all of the aforementioned processes are repeated.

①日本国特許庁
公開特許公報

① 特許出願公開
昭52-98845

⑤Int. Cl. ²	識別記号	⑥日本分類	庁内整理番号	④公開 昭和52年(1977)8月19日
F 01 C 1/30		52 E 61	6792-34	
F 02 C 3/00		52 E 5	6792-34	発明の数 1
		51 B 72	6620-32	審査請求 未請求

(全 3 頁)

④タービン・エンジン

⑦発明者 白柳三郎
浜松市天王町767-9

②特 願 昭51-15551
②出 願 昭51(1976)2月16日

①出願人 白柳三郎
浜松市大王町767-9

明細書の序言(内容に変更なし)
明 細 書

1. 発明の名称 タービン・エンジン
2. 図面の簡単な説明

第1図は本発明タービン・エンジンの側面図、第2図は第1図の左から見た正面図、第3図は第1図の平断面図、第4図は第1図の状態から半回転作動後の状態の第1図と同方向から見た一部の断面とした側面図。

3. 発明の詳細な説明

本発明は気密の作動室が容積変化出来る事を特徴とする、エネルギーの無駄を極度に少くしたタービン・エンジンである。

図について説明すると、1は短い円筒形の凸起2, 3と羽根4を設けた環、5は短い円筒形の凸起の一部を欠いて出来た隙間6の部分がある凸起7と、短い円筒形の凸起の一部を欠いて出来た隙間8の部分がある凸起9を設けた円盤、10は羽根11を設けた出力軸で、隙間6, 8は羽根4, 11の厚さより大きく、隙間6に羽根4がはめ込まれ、隙間8に羽根11がはめ込まれており、羽根4の一

端は凸起2に固定し、他の端は凸起3に固定してあり、羽根11の一端は凸起3に固定され、出力軸10はベアリングを介してハウジング12に取り付けられ、ハウジング13はハウジング12に固定されると共に、基盤に固定され、ハウジング13の外周、環1、凸起2, 3、出力軸10及びハウジング12の全部が同心円、また円盤5、凸起7及び凸起9の全部が同心円で、円盤5、凸起7及び凸起9の共通の中心は、ハウジング13の外周、環1、凸起2と凸起3、出力軸10及びハウジング12の共通の中心より少し下になっている。なお環1はハウジング12に、円盤5はハウジング13にそれぞれベアリングを介して取り付けられ、凸起2と凸起7はその最下部で接触し、凸起7と凸起3はその最上部で接触し、凸起3と凸起9はその最下部で接触しており、凸起9と出力軸10はその最上部で接触している。14はハウジング12, 13に固定されたパイプ、15は環1、凸起2, 3, 7と羽根4、円盤5及びハウジング13に囲まれて気密になる作動室、16は円盤5、凸起3, 9、出力軸10、羽根11及び

特開 昭52-98845 公 報

ハウジング12に囲まれて気密になる作動室、17は環1、凸起2、7、羽根4及びハウジング13に囲まれた室、18は円盤5、凸起9、出力軸10、羽根11及びハウジング12に囲まれた室、19は作動室15または室17に連するハウジング13にあけた孔、20は作動室16または室18に連するハウジング12にあけた孔で、孔19と孔20はパイプ14によってつながっている。21は作動室15に連するハウジング13にあけた孔のガスの吹き込み口、22は室18に連するハウジング12にあけた孔の排気口である。

本発明は前記の様な構造からなり、第1図の状態で吹き込み口21から高圧ガスを作動室15内に吹き込むと、ガス圧で羽根4が右回転し、同時に凸起2、3、7、9、環1、円盤5、羽根11及び出力軸10が羽根4と一緒に第4図の状態を経て回転し、この回転で作動室15、16の容積が拡大して行き、室17、18の容積は縮小して行く。またこの回転の途中、羽根4が孔20と孔19の一端を通過すると、吹き込み口21から入っている高圧ガスが作動室15、孔19、パイプ14及び孔20を経て作動室16内

に吹き込まれ、羽根11がそのガス圧を受けて前記の回転を続けて第1図の状態になり、その後、前記の全過程を繰り返す。なお室17、18内、その他本タービン・エンジン内の邪魔なガスや空気は室17、18、孔19、パイプ14、孔20を経て、または、そのいくつかを経て、排気口22から排気される。

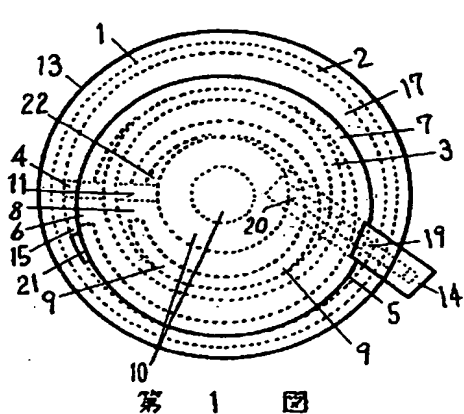
以上説明した様に本発明によれば、容積変化出来る作動室によって、極度にエネルギーの無駄を少なくしたタービン・エンジンが出来る。

4. 特許請求の範囲

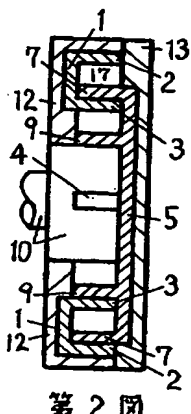
ハウジング、回転する互いに偏心した円形の隔壁、側壁、羽根、またはそれに軸に囲まれた作動室を設備した事を特徴とするタービン・エンジン。

特許出願人

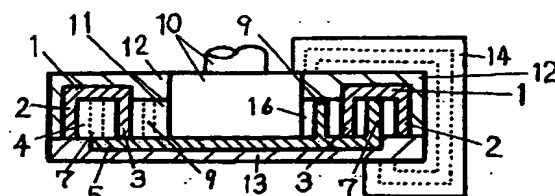
白 柳 三 郎



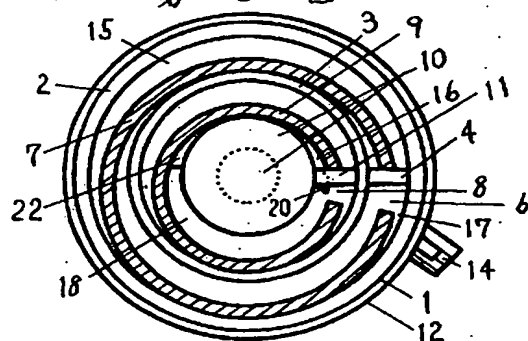
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

自 発 手 続 補 正 書 (方式)

昭和51年3月29日

特 許 庁 長 官 殿

- 1 事 件 の 表 示 昭和51年特許願第15551号
- 2 発 明 の 名 称 タービン・エンジン
- 3 補正をする者
事件との関係 特許出願人
住 所 静岡県浜松市天王町767-9
フリガナ 白 柳 三 郎
氏 名
- 4 補 正 の 対 象 願書及び明細書の全部
- 5 補 正 の 内 容 願書及び明細書の全部の浄書
内容に変更なし
(添付のタイプ印書による願書及び明細書と取替による)

特 許 庁

51.3.31

出願第二報